

第52回「博報賞」受賞者一覧

(※敬称略・都道府県順)

【博報賞・文部科学大臣賞】

- 新潟県 新発田市立住吉小学校
岐阜県 岐阜市立岐阜小学校
広島県 広島県立広島北特別支援学校

【功労賞】

- 佐賀県 KSVN(嘉瀬小学校ボランティアネットワーク)
大阪府 佐々木 豊(関西子ども詩の会 事務局 代表)

【博報賞】

- 山梨県 甲州市立勝沼図書館 カムカムクラブ
長野県 伊那市立長谷中学校
愛知県 特定非営利活動法人 子どもの国
広島県 北広島町立芸北中学校
広島県 府中町立府中小学校
徳島県 上板町立高志小学校
香川県 丸亀市立城北小学校

【奨励賞】

- 茨城県 茨城県立常陸太田特別支援学校
愛知県 初期支援コース「みらい」
奈良県 奈良市立平城小学校
沖縄県 石垣市立崎枝小中学校

※活動内容につきましては、当財団HPに掲載いたします。「博報賞 最新の受賞者」ページにてご確認ください。

主催 公益財団法人 博報堂教育財団
後援 文部科学省

【博報賞・文部科学大臣賞】受賞数 3件

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
<p>しばた すみよし 新発田市立住吉小学校 (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)</p> <p>【活動タイトル】 子どもと共に 自分の差別意識を見つめ 学び続ける「じんけん」学習</p>	<p>新潟県 新発田市</p>	<p>「差別はいけない」と教える授業から、「自分自身の加害性や差別意識を子どもと共に考える」授業へと転換を図った点が、極めて高く評価される。様々な資料教材を自作し、生活に生きる学習へと繋げている点、教師自身が「かわりレポート」を通して学びあう点も、他校の参考になる。誰もが皆、差別する側にもされる側にもなりうることを前提とし、自分自身の内なる偏見や無知をみつめることこそを大事にする住吉小の取り組みは、パンデミック下の日本で今、最も必要な教育活動の一つであり、日本の未来への大きな希望である。</p>
<p>岐阜市立岐阜小学校 (日本文化・ふるさと共創教育)</p> <p>【活動タイトル】 「地域創造型」の学校を目指す 「ふるさと大好き」 岐阜小児童の発表・提案</p>	<p>岐阜県 岐阜市</p>	<p>総合的な学習の時間「ふるさと学習」を中心に、コミュニティ・スクールの特長を生かして、地域の資源に学ぶ学習を積み重ねている。教科横断的な取り組みをし、特に社会科と連携させたことで、社会事象を「自分のこと」としてとらえ自ら行動する児童の姿につながっている。特に「長良川」について学ぶ中で児童が防災意識を高め、「防災キャンプ」を実現したり、「タイムライン」の作成によって新たな気づきを得たりし、地域の一員として主体的に考え発信している。児童がふるさとのよさをしっかりとらえ、行政にも提案をしようとする姿勢をもつことが、保護者や地域住民の意識に大きな影響をもたらし、ふるさと共創教育のモデルケースとなる取り組みである。</p>
<p>広島県立広島北特別支援学校 (特別支援教育)</p> <p>【活動タイトル】 互いを高め合う交流及び共同学習の実践 ～芸北りんごがっつなく 高等学校との取り組み～</p>	<p>広島県 広島市</p>	<p>地域の特産品である「芸北りんご」を架け橋に、距離というバリアを超えて8年間にわたって取り組まれてきた高校段階における交流及び共同学習の実践である。地域交流単元を軸に作業学習の教育課程が編成され、第2・3学年で継続して芸北分校生徒との学習が行われる。そして、りんご栽培を行っている芸北分校への訪問、りんごを使ったオリジナルパンやお菓子の製造を行っている特別支援学校への訪問、さらに合同販売と相互に学び合う機会をうまく散在している。学校の枠を超えた学習は、それぞれの生徒の意欲や自信、将来への夢や希望を向上させるだけでなく、相互の敬愛という関係まで高めている。すべての地域や学校のモデルとなる先駆的な実践と高く評価できる。</p>

【博報賞】受賞数 7件

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
<p> <small>かつぬま</small> 甲州市立勝沼図書館 カムカムクラブ (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動) </p> <p> 【活動タイトル】 主役は子どもたち 読書へのアニメーションと 地域の文化資源により、「人間力」を育む活動 </p>	<p>山梨県 甲州市</p>	<p>公立図書館が地域の子どもたちを募集し、「アニメーション」と呼ばれる手法で、読書の楽しさや読む力を育てる取り組みである。また、司書体験や書架の分類法なども学び、地域の文化資源としての図書館そのものの価値を伝える活動を含む点も、高く評価された。多くの自治体において、厳しい財政下で公立図書館の意義や価値が問われており、図書館司書の専門性も危機に瀕している。この状況下で、自らの専門性と公共性を地域に発信すると共に、次世代の子どもの中に理解者を育てている勝沼図書館の活動は、今後の公共図書館の未来に重要な意義をもつだろう。</p>
<p> <small>いな はせ</small> 伊那市立長谷中学校 (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動) </p> <p> 【活動タイトル】 中学生にできる地域おこし ～地域と共に歩みながら学ぶ 長谷中学校～ </p>	<p>長野県 伊那市</p>	<p>小規模の山間地にある中学校が、地域と一体となって取り組むことで、地域も元気になる活動を展開している。地域の人とともに実施する様々な教育活動は、学校で学ぶ生徒に確かな資質・能力を育成しているだけではなく、地域自体の活性化にもつながっている。また、そうした教育活動を支える交流の機会や場づくりが、地域コミュニティの拠点としての学校が存在や機能を支えている。地域の高齢者が生き生きと学校に関わる姿が目に見え、こうして学んだ中学生が、地域のよさを実感し、地域の未来を真剣に考えていくのである。</p>
<p> 特定非営利活動法人 子どもの国 (国際文化・多文化共生教育、日本語教育) </p> <p> 【活動タイトル】 放課後学習支援活動を通じた 子どもの健全育成事業 </p>	<p>愛知県 名古屋市</p>	<p>外国籍の子どもたちに対し、20年以上の長きに渡り、「基礎的な学力の定着」という、地道な実践に真摯に取り組んでいる団体である。学習の支援は、個を尊重したオリジナリティを有するとともに、子どもたちの自己効力感の向上や学習へのモチベーションを維持させるものとなっている。また、地域の大学生や企業スポーツ団体との積極的な協働や、卒業生への支援が継続されている点も賞賛すべき内容となっている。今後も、この取り組みをさらにブラッシュアップさせ、本実践をモデルとした、多くの子どもたちへの支援が、全国に発信されることを期待する。</p>

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
<p>北^{げいほく}広島町立芸北中学校 (日本文化・ふるさと共創教育)</p> <p>【活動タイトル】 芸北の宝で地域おこし ～茅プロジェクト～</p>	<p>広島県 山県郡 北広島町</p>	<p>地域の宝として「茅」に着目し、自然環境の活動としての「茅」だけでなく、文化的景観の保全や地域内の経済効果を考えた収入源作りの「茅」と多様な視点のあるプロジェクトは評価できる。特に「茅金市場」を設け、地域の人々と経済活動を共にするなかで、人々の温かさや厳しさ、自主性やコミュニケーション力が求められ、生きた学びがそこにある。校長先生に活動時間の延長を相談に行くなど前向きで積極的な行動は、その延長上にあったと確信した。「茅プロジェクト実行委員会」が生徒を温かくサポートし、継続的な活動となるよう「見守り」の立場は大切な点である。</p>
<p>府中町立府中小学校 (国語教育、 独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)</p> <p>【活動タイトル】 コミュニティ・スクールで取り組む 「図書館で会いましょうプロジェクト」</p>	<p>広島県 安芸郡 府中町</p>	<p>人と人とのかかわり・つながりの核として読書教育を展開しているところを高く評価した。「学校まるごと図書館」の取り組み、ブックトークや「子ども司書」、「読書貯金」、国語授業での「ブックプレゼント作せん」など、環境づくりから日々の国語指導まで、様々な読書指導の工夫がある。また、読書指導が社会的情動スキルの涵養としての自尊感情の育成につながっていることも重要である。どのように本をどう読むか、質的に高い読書とはどういうことかをいっそう探究することで、学校・家庭・地域の互恵的関係を育む新しい読書モデルの提案が期待される。</p>
<p>上^{かみいた たかし}板町立高志小学校 (日本文化・ふるさと共創教育、 独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)</p> <p>【活動タイトル】 探究的活動で地域の産業の価値や 人とのつながりを広げる学校カリキュラム</p>	<p>徳島県 板野郡 上板町</p>	<p>総合的な学習の時間の目標を「地域産業理解と持続可能な地域づくり」「つくる責任・つかう責任」等の3項目に定め、各学年で地域に学ぶテーマを定めて活動に取り組んでいる。地域の産業を自分たちの食や消費に結び付けて学ぼうとしているところが、次の社会を創る世代として重要な点である。オンラインを活用してゲストティーチャーに学ぶことで、児童が自ら考えを伝え、課題を解決しようとする学習態度、自らの生き方を考える姿勢を生み出している。藍染めマスクづくり・販売により児童の中に育ったエシカル消費についての意識は、地域発地球規模の視点につながり、他の学校・地域での取り組みの参考となりうる。</p>

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
<p>丸亀市立城北小学校 <small>じょうほく</small> <small>(独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)</small></p> <p>【活動タイトル】 人を中心に、 自分も大切に学習の創造</p>	<p>香川県 丸亀市</p>	<p>人権・同和教育を、「～しない」という禁止の視点ではなく、「人を大切にする教育」という視点で捉え直した点、さらには「人を大切にすることは、自分を大切にすることにつながる」ことを子どもたちと共有した点が素晴らしい。日常の学校生活のなかで、終始一貫して「人を大切にする」ことを子どもに伝え続けた結果、友達への乱暴な言葉づかいが減り、相手に寄り添うコミュニケーションが生まれ、結果として子どもたちの自尊感情が有意に高まったという事実は、形骸化しやすい「〇〇教育」の枠を超えて、教育の本質がここにあることを強く物語っている。</p>

【功労賞】受賞数 2件

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
<p>KSVN(嘉瀬小学校 ボランティアネットワーク) <small>かせ</small> <small>(日本文化・ふるさと共創教育、 独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)</small></p> <p>【活動タイトル】 たくましい実践力と ふるさと愛を育む教育の創造 「どようひろば」を核として</p>	<p>佐賀県 佐賀市</p>	<p>2002年に「たくましい実践力」と「ふるさと愛」を育むことを柱に始まった「どようひろば」の取り組み。子どもの学びに対してよい環境を届けたいと願った地域の人々の願いが、学校側の総合的な学習の時間における「ふるさと学習」に上手に連動されている。高学年の児童一人一人が地域社会の中で活躍できるように「役割・出番・承認」を感謝祭やふれあい運動会で実現できている。「どようひろば」で信頼関係のできた地域の人々だから児童は安心してできると確信できた。「どようひろば」から始まった活動が20年間、目標を変えずに継続してきたことに敬意を表する。</p>
<p>佐々木 豊 <small>ゆたか</small> <small>(関西子ども詩の会 事務局 代表)</small> <small>(国語教育)</small></p> <p>【活動タイトル】 「子ども詩の会」の 長年にわたる啓発活動による 児童詩教育実践普及</p>	<p>大阪府 豊中市</p>	<p>先生は、「関西子ども詩の会」の活動など、長年、小学校教員として児童詩教育に取り組んで来られた。子どもの発想やイメージを大切に、感動を意識化させ、のびのびと表現を開花させていく指導が注目される。児童詩の指導には、苦手な子など個に応じた指導、読解(鑑賞)と表現の連携、自発的な感動から表現への道筋のつけ方、交流のあり方など、創作指導としての種々の難しさがある。そうした課題はありつつも、根幹において重要なのは、児童詩への暖かいまなざしであり、子どもの感動への寄り添いである。先生の指導で子どもたちの思いは、詩に結晶していく。</p>

【奨励賞】受賞数 4件

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
<p>茨城県立 <small>ひたち おおた</small> 常陸太田特別支援学校 (特別支援教育)</p> <p>【活動タイトル】 12年間連続して本物に触れながら学ぶ 「OTA キャリア教育プラン」の実践</p>	<p>茨城県 常陸太田市</p>	<p>2015年度開校当初から6年間にわたり、「キャリア教育の推進」を掲げ、地域・保護者・学校が連携し、小中高の全学部で取り組んでいる実践である。特に、実社会の現場で行う「本物に触れる学び」は、児童生徒が実体験を通して成長することを目的としており、教員の評価も高い。2018年度からは、キャリア教育全体計画「OTAキャリア教育プラン」を策定し、より一層、系統立てた教育実践に努め、子どもたちの笑顔につながっている。今後、各学部における教育課程を踏まえた上で、個々の発達段階や障がい特性に応じた「地域で働く体験」が具現化されることを期待する。</p>
<p>初期支援コース「みらい」 (日本語教育、 独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)</p> <p>【活動タイトル】 中学生に特化した日本語指導と 教科学習の支援 ～在籍校へのソフトランディングを 目指して～</p>	<p>愛知県 豊橋市</p>	<p>初期支援コース「みらい」の活動は、日本語指導の必要な中学生の学校への適応と教科学習への橋渡しを集中的に、効率良く、そしてあたたかなまなざしをもって行われている。「みらい」での活動に日本語教育や主要教科のみならず実技教科の要素を取り入れ、在籍学校での交流を要するタスクは生徒が教師や在籍学校の生徒と相互理解の促進にもつながっている。現段階でも素晴らしい活動であるが、それゆえに「みらい」だからこそ可能となった点、注力や配慮、展開のポイントなど活動の整理と精緻化を試み、他団体も参照できるよう発信されることを期待したい。</p>
<p><small>へいじょう</small> 奈良市立平城小学校 (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)</p> <p>【活動タイトル】 学校から地域を巻き込みSDGsの達成に 貢献するESDの実践開発</p>	<p>奈良県 奈良市</p>	<p>学習指導要領が改訂され、新たに前文が位置付けられた。そこには「持続可能な社会の創り手」ということばが示され、これからの社会に求められる人材像が明らかにされている。平城小学校の実践は、そうした未来社会を担う子どもに確かな資質・能力を育成しようとする取り組みである。総合的な学習の時間を通して、子どもが地域の学習材を対象に、十分な体験活動を土台にして、粘り強く探究している姿が印象的である。また、それを支える指導体制や組織が整備され、学校外との連携が安定的に行える状況を整えようとしている。</p>

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
<p data-bbox="207 293 586 353">石垣市立^{さきえだ}崎枝小中学校</p> <p data-bbox="207 362 683 431">(日本文化・ふるさと共創教育、 独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)</p> <p data-bbox="207 484 391 514">【活動タイトル】</p> <p data-bbox="207 530 683 652">生まれ育った自然環境を愛し、 誇りに思う児童生徒の育成 ～動植物が教えてくれた石垣島の魅力～</p>	<p data-bbox="727 316 808 385">沖縄県 石垣市</p>	<p data-bbox="880 316 1414 844">生徒は「観光開発」と「環境保全」の二項対立的な考え方から一歩踏み出して、科学的な考察を基にしながら、ふるさと石垣島の魅力を確認している。中学校理科教諭の指導により科学的な研究方法(調査、観察等)をとったESD教育によって、生徒は体験的・探究的に学ぶ姿勢を身に付け、活動に主体性が生まれて、さらに継続した取り組みになったと評価する。今後は是非とも、小中学校のよさを生かして、小学校低学年の生活科や中学年からの総合的な学習の時間と連携させて、9年間の一貫した環境への取り組みを深め、崎枝ブランドに対する思いを確かなものにしてほしい。</p>

公益財団法人 **博報堂教育財団**

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2丁目2-3 日比谷国際ビル14階 TEL:03-6206-6266(平日9:30~17:30)

URL:<https://www.hakuhodofoundation.or.jp/> 博報堂問合せ先(メール):hakuhoushou@hakuhodo.co.jp